

## 〔特集〕

# 平成21年度の岡山県畜産施策を紹介します

岡山県農林水産部畜産課

本年度の県畜産行政の柱となる7つの施策内容と、施策毎の重点事業及び新規事業を紹介します。

### 1 生産振興対策

家畜改良、生産基盤の整備、畜産経営の安定対策、担い手育成対策をはじめ、公共育成牧場の機能強化や乳用後継牛の確保対策を行います。また、カウコンフォートの推進や経営診断等に基づく農家指導を強化していきます。

#### ○「みんなの牧場へ」ステップアップ事業

県内産の乳用後継牛確保を推進するため、公共育成牧場の施設改修や草地更新等高位生産に向けた取組に対する補助を行い、より効率的な飼育管理が可能な牧場へと機能強化を図っていきます。また、体験学習等食育の場の提供や農作業受託作業の推進等、新たな取組を支援し、地域への貢献度を高めていきます。

#### ○第13回全日本ホルスタイン共進会出品対策

おかやま酪農協等19団体とともに岡山県出品対策協議会を組織し、来年度、北海道で開催される同共進会に向けて農場巡回による出品候補牛の選定、管理指導等、上位入賞に向けた出品対策に取り組めます。

#### ○飼料生産基盤整備事業

国際化の進展による輸入畜産物との競合や国内での産地間競争に対処するため、平成20～23年度までの4年間、吉備高原地区内4市町の畜産担い手に対して草地造成及び施設整備の重点的な支援を行い、飼料自給率の高い中核的経営体の育成を図っていきます。

### 2 飼料自給率向上対策

耕畜連携の強化により、水田を活用した自給飼料の生産拡大を図るとともに、生産された自給飼料の広域流通を支援します。さらに、河川敷野草等の未利用資源の活用や、耕作放棄地を活用した和牛放牧を推進します。

#### ○和牛の放牧を活用した耕作放棄地解消対策事業〈新規事業〉

中山間地域における耕作放棄地の再生・利用を推進するため、繁殖農家等が放牧に適した牛を作出、または導入する経費に対して補助するとともに、和牛放牧による耕作放棄地解消に向けた取組を支援していきます。また、新たに放牧経営を開始する人を対象とした技術研修の開催等、未経験者が安心して和牛繁殖経営を開始できるようサポート体制を強化します。

#### ○河川敷を活用！低コスト自給飼料確保対策事業〈新規事業〉

豊富な草資源を有し、古くから家畜飼料として利用されてきた河川敷野草ですが、現在では未利用のまま焼却処分されることが多くなっています。河川敷の畜産的利用と景観保全を進めていくため、管理する国交省河川事務所と畜産関係団体との間でのネットワーク作りを進め、堤防野草の飼料利用や河川敷の草地化に向けた課題検討を行います。

#### ○水田活用型飼料増産対策

国の補助制度を積極的に利用しながら耕畜連携の強化を進め、特に県南の大規模水田を利用した稲WC S作付や稲わら収集を拡大していきます。生産された自給飼料については「水田を活用！高品質畜産物生産

対策事業」での輸送費補助等を活用し、県南の水田地帯から県北の畜産地帯への供給が円滑に行われるよう広域流通体制の整備を進めます。

### 3 食の安全・安心確保対策

高病原性鳥インフルエンザや BSE の発生予防対策、続発しているヨーネ病の清浄化対策を推進します。また、農場レベルでの安全・安心確保対策に向けた取り組みとして、動物用医薬品や飼料の適正使用を指導していきます。

#### ○家畜伝染病予防事業

伝染病の発生予防及びまん延防止のための検査、予防注射、消毒、病性鑑定を法律に基づき実施します。

その中でも高病原性鳥インフルエンザについては、モニタリング対象農場の規模、畜種を拡大して監視体制を強化するとともに、発生に備えた防疫資材の備蓄を県内 5 家保で進めていきます。

### 4 消費拡大対策

酪農体験ができる場の提供や生産者との交流、地域限定商品の開発等を通じて、ジャージー牛の新たな魅力を創出し、販売拡大と併せてジャージー酪農の安定的な発展を図っていきます。

### 5 環境保全型畜産対策

家畜ふん尿の適正処理に向けた技術指導を行うとともに、研修会等の実施により利用性の高い堆肥生産技術の普及を図ります。また、家畜糞尿、食品副産物をはじめとする地域の未利用バイオマスの効率的な利活用に向けた事業を推進します。

### 6 畜産の技術開発

総合畜産センターにおいて、行政施策と連動した技術開発を進めます。特に、本年

度は未利用有機資源の活用技術や低コストな生産性向上技術の開発を強化します。

#### ○地域資源活用型 TMR センター構築による飼料自給率向上システムの確立

県内食品工場から排出される食品製造副産物や稲 W C S 等の地域粗飼料資源を利用した低コストな TMR 調製技術を検討します。

利用する食品製造副産物は排出量、栄養成分等の事前調査結果から利用可能性の高いものを選定し、給与試験等を通じて実用化を図ります。

#### ○畜産バイオマスを活用した新たなエネルギー回収技術の検討

家畜糞尿（＝畜産バイオマス）発酵時に発生するメタンガスの有効利用法を検討します。特に、バイオマスのエネルギー変換効率を高めるため、各種未利用資源を活用したメタンガスの発生量増加技術を検討します。

### 7 県営食肉地方卸売市場の活性化

食肉の安全・安心に対する信頼性の確保に向けて、ISO9001 や HACCP システムの効率的な運用を行い、衛生管理の徹底とあわせてより一層の品質向上に努め、市場の活性化を図っていきます。

本年度の岡山県畜産施策の推進方針、主要事業は以上のとおりです。

昨年 6 月に発表された県の「財政危機宣言」以降、畜産部門においても事業数及び予算額の大幅な削減が余儀なくされております。このような限られた予算内でこれまで同様高い事業効果を得るためには、事業の円滑な推進が必要不可欠となりますので、引き続き皆様方の御理解と御協力をよろしくお願いします。